

主イエスは主にガリラヤで活動が続けられましたが、何回かイスラエルの中心地であるエルサレムへ行かれたようです。ヨハネによる福音書によりますと三回主イエスはエルサレムに弟子たちと共に出かけられたようです。イスラエルの十二歳以上の男子は全員、年に一回以上エルサレムへ行くことが義務づけられておりましたのでそのせいもありましたが、やがて訪れるべき十字架の受難を考えますと、主イエスが三回エルサレムへ行かれたというのは重要なことになります。すなわちイエスの活動が三年間にわたっていたこと、そして一番主なる神に近い都であるはずのエルサレムがむしろ邪悪に満ちており、イエスが正義を持ってこられたのに、むしろ悪をもってそれを阻害しようとした、しまいには悪とねたみを持ってイエスを殺そうとしたのでした。

本日の福音書の最初のところでは、主イエスが神殿の中でもものを売り買いしていた人々を追い出したというまことにショッキングな内容が選ばれておりました。主イエスが激怒されたというのは聖書の中にはほとんど出てきませんが、ここはその数少ない箇所の一つでした。これは重要な点であります。主がどのような人間の心に対して怒りを持たれるのかを示しているからです。

ここで出てまいりました両替人は、様々な地域から持ち込まれてくる通貨を神殿の中で通用する通貨に両替するのが役目です。人々はまず両替をしてからでなくては神殿にはいることは出来なかったのです。またハトを売る人達もまた人々が礼拝の中で犠牲をしてささげる動物を扱っていたのでした。従ってどちらも神殿の中で必要とされていた人達であったのでした。しかし彼らは自分達が必要とされている、不可欠な存在であるのを利用して私腹を肥やしておりました。動物の値段を外で売っているのより18倍から20倍にも高くしてみたり、両替の手数料を多額にしてみたりで、神殿に来る人達を苦しめていたのです。必要とされているのをいいことに自分達のためにそれを用いるという彼らの行為に対し、主イエスは怒りを燃やされたのでした。そのような神殿の中で果たして正しい礼拝がささげられるでしょうか。人々の心が正しく主なる神に向かうでしょうか。主なる神に心を向けるよりたくさんのお金を旅人から巻き上げること、静かな祈りより金銭のジャラジャラした音。イエスをご覧になった神殿はまさにこういう状況であったのです。

追い出された人々は自分のしたことを反省すべきでした。神殿とは何である

のか、主なる神の存在とはどういうことであるのか、自分の心に今住んでいるのは何なのか、それをしっかりと見つめ、自分の心を清めねばならなかったのです。しかし彼らが行ったのはどういうことでしたでしょうか？

『ユダヤ人たちはイエスに、「あなたは、こんなことをするからには、どんなしるしをわたしたちに見せるつもりか」と言った』。

これこそ主イエスを全く認めていない、主なる神に対し敬虔な心を失ったものの言葉です。主なる神を求め、新しい心で主なる神に使いようとする人々の心を奪い、人々の心から主なる神への敬虔を奪う、自分達の欲を優先するものの言葉なのです。

主イエスの怒りの前に私たちは自分達の中に同じ部分がないかこの大齋節に気を付けて見つめてみなさいと勧められています。主なる神に対していつも敬虔な心をもっているか、他の人が主なる神を求めようとして来た時、私たちの行動や心を見てさまたげてはいないか、主なる神に敬虔な心を持つのを違う方向へ向かわせてしまったことはないか、私たちの信仰生活を振り返り、そしてイエスの大きな怒りの前に許しを乞い、新しい出発へと歩みだしていくのがこの大齋節であります。

さて、最後のところをもう一度読んで、本当に主なる神への敬虔を忘れることの恐ろしさ、私たちが信じる主イエスの存在を心に刻んでみましょう。

『イエスは答えて言われた。「この神殿を壊してみよ。三日で建て直してみせる。」それでユダヤ人たちは、「この神殿は建てるのに四十六年もかかったのに、あなたは三日で建て直すのか」と言った。イエスの言われる神殿とは、御自分の体のことだったのである。イエスが死者の中から復活されたとき、弟子たちは、イエスがこう言われたのを思い出し、聖書とイエスの語られた言葉とを信じた。